

アーティスト・イン・レジデンスを活用した地域創生政策  
の展開

—養父市における『つながり人口』創出を目指して—

青山学院大学総合文化政策学部 片山ゼミナール

指導教員 片山泰輔

代表者 天野風花

発表者 天野風花 岩崎穂香 折居真帆 加藤凜 竹原舞衣 辻希生 根本凌成

長谷川航汰 武蔵千花

目次

梗概

はじめに

第1章 養父市の現状

第1節 行政と地理

第2節 人口

第3節 計画

第4節 問題意識

第2章 先進事例・先行研究

第3章 事業提案

第1節 概要

第2節 運営体制

第3節 AIRの概要

第4節 AIRの目的と効果

第5節 AIRの予算

第6節 芸術祭概要

第7節 芸術祭の目的と効果

第8節 芸術祭の予算

第4章 展望

第5章 総括

梗概

本稿は、兵庫県養父市を対象に、アーティスト・イン・レジデンス（以下、AIR）やアートイベントの開催を通じた地域創生政策の可能性を検討するものである。養父市は人口減少と高齢化の進行に加え、地理的な制約によって地域間交流が生じにくいという課題を抱えている。その結果、地域コミュニティの希薄化が進み、市民同士の関わりや地域への愛着の低下が懸念されている。こうした背景を踏まえ、本稿では「つながり人口」を増や

すことを主な目的とし、芸術文化の力を活かした持続可能な地域活性化の方策を提案する。

研究方法として、養父市役所および市内の文化施設へのオンライン調査を行うとともに、他地域の AIR 事業や芸術祭の先行事例研究を実施した。これらを通して、地域資源の活用方法やアーティストと住民の協働体制のあり方について比較・分析を行った。

その結果、養父市には豊かな自然環境や地域行事、文化施設など多様で魅力的な文化的資源がすでに存在していることが明らかとなった。これらの資源を外部から訪れる発信力を持つアーティストに活用してもらったり、養父市の魅力を再発見してもらったりすることで市内外に新たなつながりが生まれ、養父市への関心やつながり人口の増加が期待できる。また、アーティストと住民が協働して作品制作やイベント運営を行うことで、養父市民としての誇りや主体性を育む場が形成される。

今後養父市が市内のみならず市外にもネットワークを広げるためには、まず市と市民が協働したアートを通じた地域の魅力を再発見・再発信が重要である。本稿では、アートを媒介として養父市との様々な「つながり」を創出する新たな地域創生のモデルを提示する。

はじめに

養父市は「居心地が良く、住み続けたいと思う空間」の実現を目指している。そのためには、まず市民が主体的に関わり協働する場を生み出すことが重要である。この課題に対して、芸術文化政策研究の知見のもとで、養父市が有する公共文化施設と様々な文化事業に注目した。養父市には複数の公民館や市民ホール、アート制作を行うことができるアトリエ施設などが存在しており、養父市は芸術文化を発信・享受する基盤をすでに有している。本稿では、養父市がすでに保持するそれらの文化資源に着目し、アートを通じて新たな価値を創造することを目的として養父市に対する政策提言を行う。

## 第1章 養父市の現状

### 第1節 行政と地理

養父市は兵庫県北部の但馬地方に位置する市で、人口は兵庫県の市では最も少ない約2万人<sup>1</sup>、面積は約423平方キロメートルで、2004年に八鹿町、養父町、大屋町、関宮町が

---

<sup>1</sup> 養父市（2021）「令和2年国勢調査における人口等基本集計結果について」

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/gyosei/tokei/8352.html>（最終閲覧日 2025年11月7日）

合併してできた<sup>2</sup>。

市の東部には一級河川円山川が流れており、西部には県下最高峰の氷ノ山やハチ高原、北部には妙見山がそびえるなど、中山間地域特有の雄大な自然に囲まれている。それゆえ、中心部を除いた市内の移動には車が不可欠で、移動におけるサポートが必要な人々への交通費助成事業や市民をドライバーとしたシェアライド事業「やぶくる」など、様々な移動支援サービスを市が提供している<sup>3</sup>。

## 第2節 人口

養父市は少子高齢化が進行する地域であり、「地区別高齢化状況調査表」によると、65歳以上人口は2025年9月末時点で40.92%となっている<sup>4</sup>。『養父市人口ビジョン』

(2015)では、2030年ごろには総人口が2万人を下回り、高齢化率が40%を上回ると予想されていたが<sup>5</sup>、これを上回る速度で高齢化が進行しているといえる。

若年層の人口動態では20歳前後に大幅な減少がみられ、20歳人口は18歳人口から半減している<sup>6</sup>。進学・就職を境に養父市外へ転出する若者が多く、市内に住み続ける人口が少ないことが読み取れる。

## 第3節 計画

---

<sup>2</sup> 養父市（2022）「養父市の地勢と歴史」

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/gyosei/shokai/3555.html>（最終閲覧日 2025年11月7日）

<sup>3</sup> 養父市（2024）「移動に関する支援事業」

[https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/kenkofukushi/shakai\\_shoho/11582.html](https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/kenkofukushi/shakai_shoho/11582.html)（最終閲覧日 2025年11月7日）

<sup>4</sup> 養父市（2025）「地区別高齢化状況調査票\_\_令和7年度9月末」p.7、

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/11/tikubetukoureika-R7-9.pdf>（最終閲覧日 2025年11月7日）

<sup>5</sup> 養父市（2015）「まち・ひと・しごと創生総合戦略 養父市人口ビジョン」p.18、

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/5/jinkoubijon.pdf>（最終閲覧日 2025年11月7日）

<sup>6</sup> 養父市（2015）「まち・ひと・しごと創生総合戦略 養父市人口ビジョン」p.4、

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/5/jinkoubijon.pdf>（最終閲覧日 2025年11月7日）

養父市は「養父市まちづくり計画」(2021)において、2050年に向けて「やぶ2050～居空間構想～(社会変革を生み出す新たな結の創出)」を理念として掲げている<sup>7</sup>。

この理念のもと、養父市は「挑戦できるまち」「次世代へつなぐ持続可能なまち」を目指し、従来の定住人口対策にとどまらず「つながり人口(養父市と関係を築きたい、地域に関与したい人々)」を創出し、まちづくりの輪を広げる考え方を取り入れている。また、養父市民と「つながり人口」との共創を促し、市内外に向けた地域価値の発信による多様な人々との関係形成を図っている。

このように、養父市はつながり人口を取り込み、地域資源と人材を活かした「関係性の再構築」と「地域価値の創造」を通じて、住民が主体的に参画でき、持続性ある地域社会を形成する方向性を志向している。

#### 第4節 問題意識

前項で述べた養父市の現状を踏まえ、本稿では「高齢化」と「地理的制約」によって生じる「地域コミュニティの希薄化」という課題に焦点を当て、政策提言を行う。

まず「高齢化」について、養父市はすでに超高齢社会にあり、地域の活力低下が懸念される。養父市が掲げる「市民・地域・公共がともに挑戦するまちづくり」の推進には、世代を超えた交流の場を創出し、市内外に関わりを生み出すことが重要である。

次に「地理的制約」について、中山間地域という地理的特性上、交通の不便さは避けられず、住民間の交流を妨げている。さらに市外から訪れる人々にとってアクセスの難しさが課題であり、県庁所在地の神戸や近隣の大阪・京都から約2時間を要する立地条件は、つながり人口の拡大を阻む要因となっている。したがって、「遠くても訪れたい」と思わせる地域の魅力づくりが必要である。

以上のことから、養父市における地域づくりの鍵は「地域コミュニティの希薄化」の解消にあると言える。次節ではその方策を探るため、先進事例や先行研究を分析する。

## 第2章 先進事例・先行研究

日本各地で人口減少や地域コミュニティの希薄化が進む中、芸術を媒介とした地域再生の事例が注目されている。特に、AIRや地域型芸術祭は、地域資源を活かし外部人材と

---

<sup>7</sup> 養父市(2021)「養父市まちづくり計画」

[https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/4/yabushi\\_machidukurikeikaku.pdf](https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/4/yabushi_machidukurikeikaku.pdf) (最終閲覧日 2025年11月7日)

の交流を生み出す場として評価されてきた。これらの活動は一過性の観光振興にとどまらず、「つながり人口」を拡大し、新たな関係性を築く契機となり得る。本章では、先進事例とそれらに着目した先行研究を整理し、その意義を明らかにする。

近年の地方創生政策において、人口減少や都市集中化の克服を目指し、「定住人口」や「交流人口」に加えて、より多様な関わりを持つ「関係人口（つながり人口）」が注目を集めてきた。例えば田原(2023)は観光客として訪れた者が地域に関心・関与意識を深め、継続的な地域関与の志向へと変容するという仮説モデルを提示している<sup>8</sup>。

一方、文化芸術の観点からは、飯野(2023)は滞在型のアーティスト招聘事業(AIR)が「地域の文化資源の再発見」「住民と外部アーティストとの交流」「地域への関与機会の創出」を通じて、まちづくりに一定の貢献をしてきたとまとめている<sup>9</sup>。

これらの研究から、関係人口とAIRには「外部人材との関わりを通じて地域に新たな関係性を生み出す」という共通する構造が見出せる。芸術を媒介とした交流は、単なる経済的効果を超え、地域住民の意識変化や社会的ネットワークの再編成をもたらす契機となる。したがって、AIRや芸術祭を通じた「つながり人口」の形成は、地域の文化的持続性を高める重要な政策手段となる。

徳島県神山町のKAIRは、町内外からアーティストを招聘し、地域住民と共同で創作活動を行う滞在型アート・プログラムだ<sup>10</sup>。過疎化・人口減少という地域課題に対し、芸術・人材の流入を通じて「価値の転換」を目指した。仕組みとして、住民とアーティストが顔を合わせ、アーティストは地域の自然・歴史・住民協力を素材に創作するという相互関係が設計されている。応募要項には、町内の学校での課外授業や製作・交流イベントなどの参加が記されている<sup>11</sup>。成果として、滞在・交流を契機に地域への関心を持つ外部人

---

<sup>8</sup> 田原 洋樹・敷田 麻実(2023)「交流人口から関係人口への変容可能性の検討」、『日本観光研究学会機関誌』Vol. 34 No. 2、  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jitr/34/2/34\\_49/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jitr/34/2/34_49/_pdf/-char/ja) (最終閲覧日 2025年 11月 7日)

<sup>9</sup> 飯野 直美(2021)「地域におけるアーティスト・イン・レジデンスの意義」、『令和3年度国内調査事業(海外調査研究事業振替)』、  
<https://www.jcrd.jp/publications/355467f07c95b11cebfa97dd0e3ec2a766a06dbd.pdf>  
(最終閲覧日 2025年 11月 7日)

<sup>10</sup> 湊 美和(2013)「変化を起こす人はなぜ、そこに集まるのか」、『Works』No. 120、  
<https://www.works-i.com/works/item/w120-toku2.pdf> (最終閲覧日 2025年 11月 7日)

<sup>11</sup> in Kamiyama(2025)「2025年度 神山アーティスト・イン・レジデンス 応募要項」

材の誘致・定着に成功し、企業の誘致や移住者増加などの波及効果も確認された。

こうした先進事例やそれらを対象とした先行研究から導かれる養父市への示唆として、以下の点が挙げられる。養父市は「つながり人口」の創出を掲げているため、KAIRのように地域に入る人材と地域が受け入れる仕組みを両立させることが有効である。次に、交流や共同制作を明確な条件とし、住民とアーティストが相互に影響し合う仕組みと継続的な運営体制の構築が成果の定着に不可欠である。最後に、「地域らしさ」を発信基盤とし、外部人材を「つながり人口」の核として位置づけることで、関係性の深化と地域参画が促される。

## 第3章 事業提案

### 第1節 概要

養父市が抱える「地域コミュニティの希薄化」という課題を踏まえ、本稿では「つながり人口」の増加を目的に、大屋地区を拠点としたAIR事業およびその成果発表の場となるアートイベントの年間プログラムを提案する。大屋地区は豊かな自然に囲まれ、「おおやアート村 BIG LABO」や「おおやホール」など複数の公共文化施設を有するため、文化の創造・発信・享受の各段階で活用できる。また、先述の「やぶくる」は大屋・関宮地域を発着地点として運行しており、移動手段として利用可能である。

AIR事業では9～11月の前期・4～6月の後期各2名のアーティストが滞在し、四季に合わせて制作を行う。12～3月には次年度入居者や芸術祭参加者の募集および芸術祭に招聘するアーティストの公募を行い、8月に年間の成果発表の場として芸術祭を開催する。アーティストは制作に加え、地域住民との交流やSNSを通じた養父市の魅力発信にも取り組み、市内外での新たなつながりの創出を目指す。

### 第2節 運営体制

本事業は養父市が主催し、運営は新たに設立する市民主体のNPO法人に委託する。年齢制限を設けず、老若男女が経営参画できる体制を整え、幅広い市民参加による運営を目指す。NPO法人は、AIR事業におけるレジデンス運営や入居アーティストの選考、芸術祭のイベント運営や作品管理を担う。運営は、専門知識を持つ職員や多様な市民ボランティアによって支えられる。また、養父市で隔年開催される「ビバホールチェロコンクール」に約100名の地域ボランティアが関わっている事例を踏まえ、本事業でも同様にボランテ

---

[https://www.in-kamiyama.jp/images/sites/3/2024/12/KAIR2025\\_Guidelines-JP.pdf](https://www.in-kamiyama.jp/images/sites/3/2024/12/KAIR2025_Guidelines-JP.pdf)

(最終閲覧日 2025年 11月 7日)

ィアを募集し、アーティストと市民の交流を通じて地域に根ざした協働体制を構築する。

次項より、まずは AIR 事業について述べる。

### 第 3 節 AIR 概要

はじめに、AIR 事業の概要について記述する。AIR とは、国内外のアーティスト等が一定期間地域に滞在し、創作活動に有益な様々な交流を提供する事業である<sup>12</sup>。

本事業の拠点は、「おおやアート村 BIG LABO」や「おおやホール」、大屋地区内の古民家・コテージなどである。アーティストの宿泊場所には養蚕農家を改修した「ふるさと交流の家 いろり」<sup>13</sup>を指定し、大屋地区の歴史や自然を日常的に感じられる環境を提供する。制作拠点は「おおやアート村 BIG LABO」の創作棟を主に使用する<sup>14</sup>。

入居アーティストは国内外から幅広く募集し、養父市の自然環境を活用した創作活動や、自然豊かな環境での制作に関心を有することを応募条件とする。養父市が中山間地域であること、さらに大屋地区に木彫りフォークアート作品を展示する木彫展示館があることを踏まえ、このような条件を設けることで養父市の地域性に魅力を感じるアーティストの招聘が可能になる。

### 第 4 節 AIR の目的と効果

主な目的は以下 4 点である。

1. 地域に根ざした創作活動を通して、養父市の魅力を再発見・発信する。
2. 住民とアーティストの交流を促進し、創造的な地域コミュニティを形成する。
3. 空き家や既存施設を活用し、持続可能な文化活動のモデルを構築する。
4. 若者や子どもたちに創造的体験を提供し、文化教育の場を広げる。

効果として、各アーティストに滞在中、作品制作だけでなく市民との積極的な交流を義務付けることで、養父市が単なる制作の場ではなく、「つながり」を生む場として機

---

<sup>12</sup> 文化庁 (2025) 「令和 7 年度アーティスト・イン・レジデンス型地域共同支援事業 募集案内」 [https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_boshu/kobo/pdf/94154501\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/94154501_01.pdf) (最終閲覧日 2025 年 11 月 7 日)

<sup>13</sup> やぶ市観光協会「ふるさと交流の家「いろり」」  
<https://www.yabu-kankou.jp/sightseeing/irori> (最終閲覧日 2025 年 11 月 7 日)

<sup>14</sup> BIG LABO 「創作棟」  
<https://biglabo.com/facility/creation/> (最終閲覧日 2025 年 11 月 7 日)

能することが挙げられる。アーティストが養父市で製作した作品を通じて市民は地域の新たな価値に気づき、養父市民のシビックプライドの醸成も期待できる。

## 第5節 AIRの予算

AIR事業の予算は、全額を一般財団法人自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」による補助金で賄う<sup>15</sup>。

宿泊場所には「ふるさと交流の家いろり」を使用し、1泊1人2,800円、前後半各2名が3か月滞在するため、滞在費は計100万8,000円となる。制作拠点の「おおやアート村BIG LABO」の利用料は、1人月額1万円を3か月分負担し、計12万円とする。加えて、制作費12万円、ワークショップ等の人件費・施設使用料30万1,000円を計上し、制作費は参加費収入等で補う。さらに、募集・審査に係る謝礼や広報・事務費として35万円、プロデューサー費250万円、雑費10万円を見込み、総額449万9,000円となる。以上の経費は、先述の補助金で最大500万円の助成を受けることが可能であるため、補助金で全額を充当する。

## 第6節 芸術祭概要

次に、アートイベント「養父芸術祭」について記述する。「養父芸術祭」は、AIR事業に参加したアーティストや地域住民の成果発表の場であるとともに、新たなアーティストを招聘して開催する参加型の芸術祭である。後期AIR終了から数か月後に芸術祭を実施することで、参加アーティストが再び養父市を訪れ、地域と継続的につながる契機となる。これにより、養父市と関わる人材が文化芸術活動を通して地域に還元する循環が生み出され、住民にとっては芸術祭運営への参加や文化芸術体験の機会となる。

会場はYBfab、おおやホール、ビバホールを中心に屋外展示も交え、アーティストの創造性を発揮する場とする。

参加者はその年度のAIR入居アーティスト4名、芸術祭のみに参加するアーティスト4名、地域住民、市外来訪者のほか、チェロコンクール優勝者や伝統工芸職人など、養父市と縁のある人々も招聘する。

---

<sup>15</sup> 一般財団法人 自治総合センター「令和8年度コミュニティ助成事業 実施要綱」  
<https://www.jichi-sogo.jp/wp/wp-content/uploads/2025/08/R8-comi-youkou.pdf>（最終閲覧日 2025年11月7日）

## 第7節 芸術祭の目的と効果

主な目的は以下3点である。

1. AIR事業の成果発表の場を設ける。
2. 市民自ら参加できる能動的な文化体験の場を設ける。
3. 養父市とアーティストの継続的なつながりを創造する。

効果として、各年度のAIR事業終了後、芸術祭の開催までは一定の期間を設けるため、その年度の入居アーティストが養父市を再訪する機会を増やすことで、養父市とアーティストにより濃密な「つながり」が生まれることが挙げられる。またAIR事業の中で実施するワークショップやイベント等でアーティストと交流した市民の、芸術祭や次年度以降のプログラムへの積極的な参加が期待できる。

## 第8節 芸術祭の予算

芸術祭の事業総額は700万円とし、そのうち養父市の費用負担額は85万円を想定する。

支出内訳は、企画・制作費320万円、運営費175万円、広報・宣伝費70万円、交通・宿泊・輸送費56万円、事務局管理費35万円、施設利用費30万円、予備費14万円とする。収入面では、観覧料1,000円、来場者数5,000人を想定し、500万円の収入を見込む。さらにアーティストによるグッズ販売や公演収入として30万円を加え、総収入は530万円となる。以上から、支出総額から収入額を差し引いた170万円が当事業の実質的な支出額となる。このうち半額の85万円については、一般財団法人地域創造による「地域の文化・芸術活動助成事業 創造プログラム」<sup>16</sup>の助成金を活用し、残りの半額を養父市が負担する計画である。

## 第4章 展望

養父市での本事業の継続により、「つながり人口」の増加や、市内の文化芸術活動の活

---

<sup>16</sup> 一般財団法人 自治総合センター「令和8年度コミュニティ助成事業 実施要綱」  
<https://www.jichi-sogo.jp/wp/wp-content/uploads/2025/08/R8-comi-youkou.pdf>（最終閲覧日 2025年11月7日）

発化が期待される。AIR 事業では、市内団体や学校、公共施設との協働によって、事業関係者を拡大することができる。また参加アーティストとの継続的な交流により、芸術祭の規模拡大や他イベントへの招致が可能となり、既存の文化資源の付加価値向上にもつながる。さらに、一定の収益を確保できれば、交通アクセスへの新たな取り組みとして市外来場者向けのフリーパス制度などを導入し、観光誘致と事業拡大を促進できる。これにより、雇用創出の効果も期待される。

以上の展望から、アーティストや芸術祭関係者との連携を深め、対外的な情報発信力を高めることで、市外を巻き込んだ持続的な文化活動の展開が見込まれる。

## 第5章 総括

本提言では、AIR 事業とアートイベントを含む年間プログラムを実施し、「つながり人口」の増加を通じて「地域コミュニティの希薄化」の改善を目指す。「つながり人口」は一度訪れた人との関係の持続が重要であるため、アーティストが市民と交流し、養父市の魅力を発信しながら生活して、アートイベント開催時に再訪するという循環を生み出す本事業は大きな意義を持つ。また、市民を中心に運営することで、持続可能な地域活性を推進できる。プロジェクト初期は市内を主対象とするが、関わるアーティストの増加により市外とのつながりも広がるだろう。

本提言は、課題を抱える養父市に対し、アートによって新たな価値を付与するものである。人々の心を動かし、養父市への関心を高める力こそがアートであり、人と人がつながる仕組みの構築は、養父市に豊かな未来をもたらす契機となる。

## 参考文献

- ・養父市（2021）「令和2年国勢調査における人口等基本集計結果について」  
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/gyosei/tokei/8352.html>（最終閲覧日 2025年11月7日）
- ・養父市（2022）「養父市の地勢と歴史」  
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/gyosei/shokai/3555.html>（最終閲覧日 2025年11月7日）
- ・養父市（2024）「移動に関する支援事業」  
[https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/kenkofukushi/shakai\\_shoho/11582.html](https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/kenkofukushi/shakai_shoho/11582.html)（最終閲覧日 2025年11月7日）
- ・養父市（2025）「地区別高齢化状況調査票 令和7年度9月末」p.7、

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/11/tikubetukoureika-R7-9.pdf>

(最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・ 養父市 (2015) 「まち・ひと・しごと創生総合戦略 養父市人口ビジョン」 p. 4、  
p. 18、

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/5/jinkoubijon.pdf> (最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・ 養父市 (2021) 「養父市まちづくり計画」

[https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/4/yabushi\\_machidukurikeikaku.pdf](https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/4/yabushi_machidukurikeikaku.pdf) (最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・ 田原 洋樹・敷田 麻実 (2023) 「交流人口から関係人口への変容可能性の検討」、『日本観光研究学会機関誌』 Vol. 34 No. 2、

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jitr/34/2/34\\_49/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jitr/34/2/34_49/_pdf/-char/ja) (最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・ 飯野 直美 (2021) 「地域におけるアーティスト・イン・レジデンスの意義」、『令和3年度国内調査事業 (海外調査研究事業振替)』、

<https://www.jcrd.jp/publications/355467f07c95b11cebfa97dd0e3ec2a766a06dbd.pdf>  
(最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・ 湊 美和 (2013) 「変化を起こす人はなぜ、そこに集まるのか」、『Works』 No. 120、  
<https://www.works-i.com/works/item/w120-toku2.pdf> (最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・ in Kamiyama (2025) 「2025年度 神山アーティスト・イン・レジデンス 応募要項」

[https://www.in-kamiyama.jp/images/sites/3/2024/12/KAIR2025\\_Guidelines-JP.pdf](https://www.in-kamiyama.jp/images/sites/3/2024/12/KAIR2025_Guidelines-JP.pdf)  
(最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・ 文化庁 (2025) 「令和7年度アーティスト・イン・レジデンス型地域共同支援事業 募集案内」

[https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_boshu/kobo/pdf/94154501\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/94154501_01.pdf) (最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・ やぶ市観光協会 「ふるさと交流の家 「いろり」」

<https://www.yabu-kankou.jp/sightseeing/irori> (最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・ BIG LABO 「創作棟」

<https://biglabo.com/facility/creation/> (最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・一般財団法人 地域創造 (2025) 「令和8年度地域の文化・芸術活動助成事業 創造プログラム助成要綱」 [https://www.jafra.or.jp/fs/7/2/0/0/1/\\_/R8\\_souzou\\_youkou.pdf](https://www.jafra.or.jp/fs/7/2/0/0/1/_/R8_souzou_youkou.pdf)

(最終閲覧日 2025年 11月 7日)

・一般財団法人 自治総合センター 「令和8年度コミュニティ助成事業 実施要綱」

<https://www.jichi-sogo.jp/wp/wp-content/uploads/2025/08/R8-comi-youkou.pdf> (最

終閲覧日 2025年 11月 7日)